

# 安里川水系河川整備基本方針

平成24年8月

沖 縄 県

# 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	1
(1) 流域及び河川の概要 .....	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	4
2. 河川の整備の基本となる事項 .....	6
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設等への配分に関する事項 .....	6
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 .....	6
(3) 主要な地点における計画高水位及び 計画横断形に係わる川幅に関する事項 .....	7
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため 必要な流量に関する事項 .....	7
安里川水系参考図 .....	8

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 流域及び河川の概要

安里川は、那覇市東部の弁ヶ嶽（標高 166m）に水源を発生し、南風原町新川地先を南西方向に向かい、那覇市に入って流れを北西方向に変え、真嘉比川等の支川を合わせ、久茂地川を分流し東シナ海に注ぐ、流路延長 13.60km（安里川 7.30km、真嘉比川 3.30km、久茂地川 2.00km、潮渡川 1.00km）、流域面積 13.17km<sup>2</sup>の二級河川である。

気候は、亜熱帯海洋性気候に属し、気温は年平均 23℃、降水量は年平均 2,100mm であり、降雨は梅雨期、台風期に集中するという特徴がある。

安里川流域は、県都那覇市及び南風原町に位置し、約 85%を市街地が占める流域である。下流域には沖縄県庁、那覇市役所等が分布するなど、沖縄県ならびに那覇市の中心として機能している。那覇市では、都市活動、都市生活を支える沖縄都市モノレールが平成 15 年に開業しており、都市機能の充実を図るため、牧志・安里地区等で市街地再開発事業が進められている。中流域の市街地を流れる川は、コンクリート護岸の連続する水路状の河川であり、また、住宅の裏側を流れているため無機質な、魅力に乏しい河川となっている。しかし、上流域の弁ヶ嶽や金城ダム周辺の丘陵斜面には、樹林が河川まで迫る良好な自然環境が残るほか、広い水面を有する河口部では、川が市街地の中のオープンスペースとして重要な景観構成要素となるなど、一部では地域のオアシス的な存在ともなっている。

安里川流域内には、首里王朝時代の文化遺産として国・県・市指定の文化財が多数分布し、特に上流域の首里城跡周辺は歴史的由緒のある地域となっている。

流域の地形は、久茂地川を含む河口埋立地付近は海岸低地や中位段丘、谷底低地など、比較的平坦な平地となっている。中上流域では小起伏丘陵地となっているが、急峻な峡谷状を呈する場所も一部で見られる。

流域の地質は、下流から中流にかけての一角が沖積層となり、真嘉比川流域及び安里川上流域には島尻層群の泥岩を主体とする地層が広がる。また、首里城跡周辺には琉球石灰岩が見られ、数多くの湧水地が分布する。

源流から寒川橋に至る上流部は、丘陵地谷間を蛇行しながら流れ、途中金城ダムを経て、周辺の丘陵地に形成された宅地の中を流下する。弁ヶ嶽や金城ダム周辺にはアカギ等の樹林が残るなど、溪流の様相を呈し、自然河岸の湿った地中や転石下等に貴重種のサカモトサワガニも確認されている。金城ダム下流では、水際にヤナギバルイラソウ等の湿性植物が生育し、砂礫からなる河床に瀬・淵が形成されている。魚類は、流れの緩やかなところを好む回遊魚のアヤヨシノボリやクロヨシノボリが生息し、淵ではギンブナや回遊魚のユ

ゴイの遊泳が見られる。甲殻類は、水際植生にミナミテナガエビが、砂礫河床にはサカモトサワガニが生息している。

また、金城ダムは、歴史的景観に配慮し琉球石灰岩による整備がなされている。

寒川橋から蔡温橋上流までの中流部は、丘陵地谷間の周辺に宅地等が密集する那覇市の市街地を蛇行しながら流れる。宅地は河川まで迫り、両岸には護岸が連続する水路状の河道となっている。河岸に目立った植生はなく、水際にジュズダマ、シュロガヤツリ等の湿性植物が生育している。魚類は、水質悪化に耐性のあるモザンビークティラピアが優占して生息している。流域内に分布する湧水の流入は、生物の生息環境機能の維持に寄与しており、砂礫質の河床には貴重種である甲殻類のサカモトサワガニの生息が確認されている。

蔡温橋上流から河口までの感潮域は、海岸低地の平坦な地形の那覇市の中心市街地を流れ、周辺は建物等が密集する商業・業務地域となっている。河岸にはコンクリート護岸または石積護岸が連続し、単調な人工的景観となり、目立った植生はない。魚類は、汽水域に見られるコボラ、ボラ等が優占的に確認されている。また、シルト質の河床は魚類のミナミトビハゼ、甲殻類のアミノコギリガザミ等の生息場となっている。さらに、石積護岸の隙間は甲殻類のフタバカクガニ等多くの甲殻類の生息場として機能している。

支川の真嘉比川は、丘陵地谷間に沿って、河川まで宅地が迫る密集市街地を流れる。河川改修が進む河道は、連続してコンクリート三面張で整備された単調な水路であり、幾多の落差工を伴って丘陵地を流下する。宅地化されずに残る斜面に樹林地が残り、人工的景観を和らげている。下流側に洪水調節施設として真嘉比遊水地が整備され、その人工池はコサギ等のサギ類、コチドリ等のシギ・チドリ類の水辺の野鳥をはじめ多くの生物の生息場として機能している。

支川の久茂地川及び潮渡川は、安里川より感潮域で分流しており、那覇市の中心市街地を流れ、周辺は建物等が密集するオフィス街となっている。久茂地川は直線的な運河状の河道で、河川改修が進み両側とも石積（琉球石灰岩）を基調とした護岸であり、歴史的特性を考慮した河川景観となっている。潮渡川は、両岸にコンクリート護岸が連続する人工水路で単調な河道となっている。両河川とも全区間が感潮域であり、河道内に目立った植生はなく、汽水域を主な生息場とするコボラ等が採餌の場として利用している。石積護岸の隙間にはハシリイワガニ等多数の甲殻類が生息し、また久茂地川沿い植栽帯の土中にオカガニが生息している。

河川の水質については、河川の水質汚濁に係る環境基準は、安里川全域及び支川の久茂地川全域がE類型（BOD値10mg/L以下）に指定されていたが、近年下水道の整備等により全川の改善傾向がみられ、環境基準の類型指定の見直しが行われている。平成16年4月施行の見直し後の環境基準は、安里川および真嘉比川全域がD類型（BOD値8mg/L以下）、久茂地川全域がC

類型（BOD 値 5 mg/L 以下）となっている。平成 22 年度の水質（BOD75%値）調査によると、環境基準点である安里川の安里新橋地点で 2.6mg/L、久茂地川の泉崎橋地点で 1.4mg/L となっており、環境基準を満足している。しかし、支川の真嘉比川の宝口樋川下流 10m 地点で 11mg/L とかなり高い値を示しているなど、未だ基準値を満たしていない地点もあることから更なる水質の改善が求められている。

安里川及び支川の真嘉比川は、蛇行が激しく、流域は都市化し、兩岸とも既設護岸いっぱいまで民家が建ち並び、河積が狭小なため、台風や梅雨時には豪雨による洪水被害に見舞われており、多大な被害を被っている。

特に、昭和 40 年 8 月 5 日の台風 15 号では、床下浸水 1,229 棟、床上浸水 1,758 棟、昭和 60 年 8 月の豪雨及び台風 8・9 号による水害では、床下浸水 248 棟（安里川 173 棟、久茂地川 75 棟）、床上浸水 1,313 棟（安里川 885 棟、潮渡川 6 棟、久茂地川 422 棟）の洪水被害が生じている。

このような洪水被害を受けて、本格的な治水事業としては、洪水を安全に流下させることを目的として、昭和 47 年度より河道の掘削及び護岸の整備を行うと共に、金城ダム及び真嘉比遊水地の整備を行い、現在に至っている。

河川水の水利用については、県農業試験場が金城ダムに 0.0125 m<sup>3</sup>/s の水利権を持ち取水を行っていた。しかし、平成 18 年 3 月 31 日には県農業試験場の移転に伴い廃止となっている。

河川空間の利用としては、都市化に伴う河川沿いの開発等により、大部分の区間は近づきにくい状況にあるが、金城ダム周辺や真嘉比遊水地は公園として整備されており、散策等に利用され地域住民に親しまれている。川の再生を呼びかける「久茂地川フェスティバル」をはじめ、イベントの際にはカヌー等の水面利用が見られる。河口域では、ウォーターフロント整備が進み、県内離島を結ぶ海の玄関口として賑わっている。

このように、かつて水遊びや洗濯など日常生活と密着した存在であった安里川において、都市化による開発や治水対策による護岸整備の進展、生活雑排水の流入による河川水質の悪化、生活様式の高度化により、安里川に対する地域住民の意識も次第に遠ざかりつつあった。しかしながら、潤いと安らぎのある環境や豊かな自然に対する住民意識が高まる中、地域住民をはじめとする様々な主体による河川愛護や水辺浄化の取り組みが見られるようになっている。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、河川改修の実施状況、水害発生  
の状況、流域の市街化の進展及び河川環境の保全を考慮し、流域での対応も含めた治水対  
策を進め、治水安全度の向上を図る。

また、流域の自然環境・社会環境特性、県や市町の総合計画等を考慮し、地域との協力  
のもと市街地再開発事業等の計画的なまちづくりとの連携を行うとともに、人と川との関  
わり、河川利用にも十分配慮しながら、水系として一貫した河川整備を進めていくもの  
とする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、想定氾濫区域内の資産規模や過去の災害実績等  
を考慮し、50年に1回程度の降雨で発生する洪水を安全に流下させることを目的とする。  
そのため、金城ダムおよび真嘉比遊水地により洪水を調整したうえで、安里川の自然環境  
や河川の利用等に配慮した河道の整備を行うとともに、台風等による高潮にも対処する。

これらに加えて、計画規模を上回る洪水に対しては発生した被害に応じて必要な対策を  
講じるほか、できるだけ被害を軽減するため、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備等、  
総合的な洪水被害軽減対策を関係機関や地域住民と連携して推進する。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、今後とも適正な水利用が図  
れるように、河川の水質や景観及び動植物の生息・生育環境に十分に配慮し、関係機関及  
び流域住民との協力のもと流水の正常な機能を維持するための必要な流量を確保するよう  
努める。

また、渇水時における情報提供や情報伝達体制の整備を行い、渇水が発生した場合にお  
ける影響の軽減に努める。

河川環境の整備と保全に関しては、河川及び流域の特性を十分踏まえ、治水、利水との  
整合を図りつつ、河川環境として、河川が本来有している動植物の生息・生育環境やその  
河川と人との関わりに配慮した整備と保全に努める。また、安里川は市街地を流れる貴重  
な水辺空間として、人々の安らぎの場、自然学習の場として、水辺に近づける空間の創出  
や保全に努める。

上流部は、部分的に溪流などの良好な自然環境が残されており、現状の河川環境が将来  
的に維持・保全が図られるよう努める。

中流部と支川の真嘉比川は、沿川に住宅地が建ち並び両岸に護岸が連続する水路状の河  
道で、生息する生物も少ないことから、都市化の進展により失われてきた生物の生息環境  
の再生を目指し、流下能力の確保を図りつつ、市街地を流れる限られた河川空間の自然環  
境に配慮し、形成された河床を平行移動し平坦な河床としないなど多様な水際の創出や上  
下流の連続性の確保に努める。

下流部と支川の久茂地川及び潮渡川は、感潮域となり、中心市街地を流れる運河状の河道で、景観に配慮した石積護岸や階段護岸等で整備されていることから、河川景観や親水性の維持・保全が図られるよう努める。

河川景観については、都市との調和やモノレール等からの視点にも配慮し、歴史的な石積みによる護岸整備、川沿いの植栽等により、地域住民が日常生活の中で河川を感じることができるよう、都市に残る貴重な自然の水辺景観の形成と保全に努める。

河川の水質については、近年、下水道の整備等により全川的に改善傾向がみられるが、環境基準値を満たしていない地点もあることから、今後も関係機関及び地域住民と連携しながら、水質の改善・維持に努め、環境基準を達成する適正な水質の確保を目標とする。

河川の維持管理に関しては、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多面的機能を十分に発揮できるよう適切に対策を行うものとする。

また、河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、防災教育、河川利用に関する安全教育、環境教育等の充実を図るとともに、住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を積極的に推進・支援し「みんなで協力しあう川づくり」を目指す。

## 2. 河川整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設等への配分に関する事項

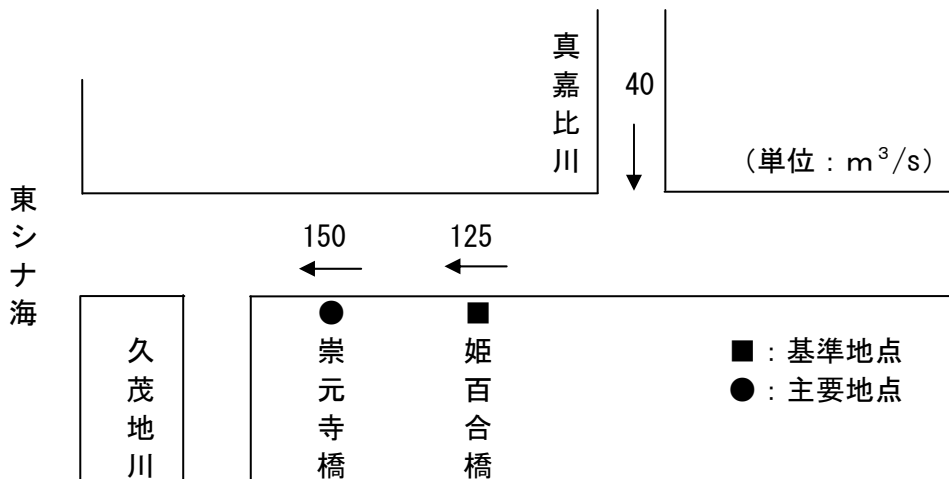
安里川の基本高水のピーク流量は、基準地点姫百合橋において  $160\text{m}^3/\text{s}$  とし、このうち流域内の洪水調節施設等により  $35\text{m}^3/\text{s}$  を調節して、河道への配分流量を  $125\text{m}^3/\text{s}$  とする。

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水の ピーク流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	洪水調節施設等 による調節流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	河道への 配分流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )
安里川	姫百合橋	160	35	125

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

安里川における計画高水流量は、基準地点である姫百合橋において  $125\text{m}^3/\text{sec}$  とする。



安里川 計画高水流量配分図



### (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる川幅に関する事項

安里川の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (k m)	計画高水位 N. P. (m)	川 幅 (m)	摘 要
安里川	崇元寺橋	0. 8	1. 3 6 (2. 0 0)	1 4	主要地点
	姫百合橋	1. 8	4. 9 8	1 1	基準地点

注) N. P. : 那覇港中等潮位

( ) : 計画高潮位

### (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

安里川の安里川観測所地点における過去 35 年間 (昭和 50 年～平成 21 年) の平均濁水流量は約  $0.168\text{m}^3/\text{s}$ 、平均低水流量は約  $0.252\text{m}^3/\text{s}$ 、概ね 10 年に 1 回程度の規模の濁水流量は約  $0.070\text{m}^3/\text{s}$  である。

安里川観測所地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量は、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮して、通年で概ね  $0.083\text{m}^3/\text{s}$  とする。

